# 安全データシート

# 魚油

改訂日：2024-01-24 版番号：1

## 1. 化学品及び会社情報

### 製品識別子

| | |
|---|---|
| 製品名 | : 魚油 |
| CB番号 | : CB7928077 |
| CAS | : 8016-13-5 |
| EINECS番号 | : 232-402-9 |

### 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

| | |
|---|---|
| 関連する特定用途 | : 研究開発用途にのみ使用。医薬品、家庭用品、その他の用途には使用しないでください。 |
| 推奨されない用途 | : なし |

### 会社ID

| | |
|---|---|
| 会社名 | ： Chemicalbook |
| 住所 | ： 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟 |
| 電話 | ： 010-86108875 |

## 2. 危険有害性の要約

### 2.1 GHS分類

GHS分類基準に該当しない。

### 2.2 注意書きも含むGHSラベル要素

GHS分類基準に該当しない。

### 2.3 他の危険有害性

なし

## 3. 組成及び成分情報

| | |
|---|---|
| 化学物質・混合物の区別 | : 化学物質 |
| CAS番号 | : 8016-13-5 |
| EC番号 | : 232-402-9 |
| 化審法官報公示番号 | : - |
| 安衛法官報公示番号 | : 適用法令により開示が必要とされる成分はない。 |

# 4. 応急措置

## 4.1 必要な応急手当

**吸入した場合**

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所に移す。 呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。

**皮膚に付着した場合**

石けんと多量の水で洗い流す。

**眼に入った場合**

予防措置として、水で眼を洗浄する。

**飲み込んだ場合**

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。 口を水ですすぐ。

## 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

## 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

# 5. 火災時の措置

## 5.1 消火剤

**適切な消火剤**

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

## 5.2 特有の危険有害性

分解生成物の本質は不明である。

## 5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。

## 5.4 詳細情報

データなし

---

# 6. 漏出時の措置

## 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

粉じんの発生を避ける。 蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。個人保護については項目 8 を参照する。

## 6.2 環境に対する注意事項

環境に対する特別処置は必要ではない。

## 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

掃いてシャベルですくいとる。 廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

### 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

**火災及び爆発の予防**

粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。

**衛生対策**

作業上の一般的な注意事項を守る。注意事項は項目2.2を参照。

### 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

**保管クラス**

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 11: 可燃性固体

**保管条件**

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。保管安定性推奨された保管温度-20 °C

### 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

**コンポーネント別作業環境測定パラメータ**

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

### 8.2 曝露防止

**適切な技術的管理**

作業上の一般的な注意事項を守る。

**保護具**

**眼 / 顔面の保護**

NIOSH（US）またはEN 166（EU）などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

**皮膚及び身体の保護具**

手袋を着用して取扱う。 使用前に、必ず手袋を検査する。 （手袋外面に触れずに）適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。 適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。 手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

**身体の保護**

適した身体防具を選ぶには、そのタイプ、危険物質の濃度や量そして特定の作業場を考慮す

る。, 特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選択しなければならない。

**呼吸用保護具**

呼吸保護は必要ではない。粉塵の不快レベルにより保護が望まれる場合、N95型（US）または P1型（EN 143）粉塵マスクを使用する。 NIOSH（US）またはCEN（EU）などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

**環境暴露の制御**

環境に対する特別処置は必要ではない。

---

# 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

| | |
|---|---|
| 物理状態 | 固体 |
| 色 | 淡黄色 |
| 臭い | データなし |
| 融点 / 凝固点 | 融点/ 範囲: 31 - 45 °C |
| 沸点，初留点及び沸騰範囲 | 400 °C |
| 可燃性（固体、気体） | データなし |
| 引火上限/下限または爆発限界 | データなし |
| 引火点 | > 180 °C |
| 自然発火温度 | データなし |
| 分解温度 | データなし |
| pH | 5 - 6 |
| 粘度 | 動粘度（動粘性率）: データなし 粘度(粘性率): データなし |
| 水溶性 | データなし |
| n-オクタノール / 水分配係数（log 値） | データなし |
| 蒸気圧 | データなし |
| 密度 | データなし |
| 比重 | データなし |
| 相対ガス密度 | データなし |
| 粒子特性 | データなし |
| 爆発特性 | データなし |
| 酸化特性 | データなし |
| データなし | |

### 9.2 その他の安全情報

データなし

---

# 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

データなし

### 10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

データなし

### 10.4 避けるべき条件

データなし

### 10.5 混触危険物質

強酸化剤

### 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

## 11. 有害性情報

### 11.1 毒性情報

**急性毒性**

LD50 経口 - ラット - > 5,000 mg/kg

吸入: データなし

経皮: データなし

**皮膚腐食性 / 刺激性**

皮膚 - ウサギ

結果: 眼への刺激なし

**眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性**

眼 - ウサギ

結果: 眼への刺激なし

**呼吸器感作性又は皮膚感作性**

データなし

**生殖細胞変異原性**

データなし

**発がん性**

データなし

**生殖毒性**

データなし

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

データなし

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

データなし

**誤えん有害性**

データなし

### 11.2 追加情報

化学的、物理的および毒性学的性質の研究は不十分と考えられる。

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

**魚毒性**

LC50 - Danio rerio (ゼブラフィッシュ) - > 100 mg/l - 96 h

**ミジンコ等の水生無脊 椎動物に対する毒性**

EC50 - Daphnia magna (オオミジンコ) - > 100 mg/l - 48 h

**藻類に対する毒性**

EC50 - Scenedesmus capricornutum (淡水産藻) - > 100 mg/l - 72 h

### 12.2 残留性・分解性

データなし

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壌中の移動性

データなし

### 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

### 12.6 内分泌かく乱性

データなし

### 12.7 他の有害影響

データなし

---

## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

**製品**

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

---

## 14. 輸送上の注意

### 14.1 国連番号

ADR/RID （陸上規制）: -　IMDG （海上規制）: -　IATA-DGR （航空規制）: -

### 14.2 国連輸送名

ADR/RID （陸上規制）: 非危険物

IATA-DGR （航空規制）: Not dangerous goods

IMDG （海上規制）: Not dangerous goods

### 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID （陸上規制）: - IMDG （海上規制）: - IATA-DGR （航空規制）: -

### 14.4 容器等級

ADR/RID （陸上規制）: - IMDG （海上規制）: - IATA-DGR （航空規制）: -

### 14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR （航空規制）: 非該当

非該当

### 14.6 特別の安全対策

### 14.7 混触危険物質

強酸化剤

国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。

詳細情報

---

## 15. 適用法令

### 15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

**国内適用法令**

**消防法:**

危険物に該当しない。

**毒物及び劇物取締法:**

非該当

**労働安全衛生法**

**特定化学物質障害予防規則:**

非該当

**有機溶剤中毒予防規則:**

非該当

**名称等を通知すべき危険物及び有害物:**

非該当

**名称等を表示すべき危険物及び有害物:**

非該当

**化学物質排出把握管理促進法:**

非該当

---

# 16. その他の情報

## 略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA：国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

## 参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト https://www.mhlw.go.jp

【2】化学物質審査規制法（化審法）https://www.env.go.jp

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） https://www.chemicoco.env.go.jp

【4】NITE化学物質総合情報提供システム （NITE-CHRIP）https://www.nite.go.jp/

【5】カメオケミカルズ公式サイト http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple

【6】ChemIDplus、ウェブサイト http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト https://echa.europa.eu/

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイトhttp://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイトhttp://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイトhttp://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト http://www.iarc.fr/

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイトhttp://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト https://www.sigmaaldrich.com/

**免責事項：**
本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。